



ひぐち 明 あきら

自由民主党 福岡県議会議員

令和2年6月議会
第6号

樋口 明 プロフィール

昭和45年10月15日生まれ
(てんびん座・O型)

家族構成:妻、長男、長女

南博(なんぱく)幼稚園卒園

福岡市立春吉小学校卒業

福岡市立春吉中学校

東福岡高等学校卒業

カナダ 州立

国会議員秘書、設計事務所社員を経
2003年4月福岡県議会議員に初当選

現在5期目

代表質問



江藤副議長 吉松議長
(左) (中央)

知事 入院病床については、現在490床を確保している。また当面の目標である570床の確保について関係医療機関と調整を進めている。宿泊療養施設については、北九州市、福岡市、そして久留米市内の3つのホテルで合計826室を確保しており、合計で1200室の確保に向けて、ホテル事業者と調整を進めている。

これにより、一般会計の総額は2兆88億3800万円余となりました。また、今定例会では、新しい正副議長が選出されました。

令和2年6月の第7回定例県議会は6月5日に本会議が開会され24日に閉会しました。議案としては、予算議案1件、追加予算議案1件、条例議案5件、工事請負契約の締結に関する議案5件、財産の取得に関する議案1件、人事に関する議案2件が提出されました。

今回の補正予算は、国の第2次補正予算案を最大限活用し、新型コロナウイルス感染症対策に必要な経費の他、JR日田彦山線沿線地域の振興に必要な経費を追加するものであります。

補正予算の額は、一般会計で1660億円余であります。

外来を県内17か所に設置をした。現在、1日850件程度のPCR検査を行うことが可能となつて いる。また、短時間で結果がわかる「新型コロナウイルス抗原迅 速診断キット」については、今 月から県内の特定機能病院 救命救急センター、感染症指 定医療機関などで使用ができる 検査体制が充実してきている。抗体検査については、複数の自治体の協力を得て疫学調査 を拡大する方針で、調査実施について国に働き掛けを行つ ている。

業者向け支援制度同様「新型コロナウイルス感染症対応資金」や「緊急経済対策資金」の融資枠を拡大する。

また、解雇等によつて働く場を失われた方には、県独自の緊急短期雇用創出事業を実施しており、千人の方が就職決定した。

県産酒については、複数の県内蔵元の日本酒や焼酎をセツトにして、購入者に酒の肴となる県産の6次化商品等をプレゼンントする取組みをおこなう。

▼
新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けての雇用の現状と対策について

援を強化している。また、飲食店による「デリバリー」など経営革新の取組みやテレワークの導入への支援、新たな製品開発等に取り組む企業へ対する補助率のかさ上げ、工業技術センターにおける設備使用料等の全額免除、中小企業診断士等の専門家派遣の無償化、通販サイトを活用した県産品販売キヤンペーンの実施など、事業継続の総合的な支援を行っている。

振興策について

地域格差の解消へ ▼ 農林漁業者等へ 支援について

知事 平成30年度から令和元年までの2年間における被保険者が負担する保険料は、県平均が5,996円で、県内で一番高い飯塚市では6,600円、一番低い古賀市では4,800円、となる。介護保険料のばらつきは、75歳以上の高齢者の割合など、市町村の地域特性から生じるものや、市町村の介護予防や要支援・要介護者の重度化防止への取組みへの差が生じる。今後も、市町村の取組みを支援することで、保険料の

▼ 県立高校における今後のオンライン学習の取組みについて(教育長答弁)

さらに、県産の農林水産物等の需要を喚起していくため、5月2日から「福岡県エフエブ物産展」を開催し、ガーベラ、アイスクリーム、博多和牛、鐘崎天然とらふくなど、現在60商品を販売した。売上げは、約2千万円となった。

加えて、花きを飾つていただき県内企業・市町村等に、その経費の一部も助成した。また、生産の継続を図つて行くため、次の作付けに必要な花き・野菜の種苗、そして和生子牛の購入への助成を行う。また、労働力不足については、外国人技能実習生に代わる人材の雇用に必要な賃金等の掛かり増し経費を助成するほか、高性能省力機械の導入を支援

ツト接続環境や生徒のパソコンなどの所有状況にかかるらず、全ての県立高校でオンライン学習が実施できるよう、タブレット型パソコンなど必要な機器を貸与でききる体制を可能な限り速やかに構築するとともに、教員のＩＣＴを活用した指導力の向上を図っていく。

▼ 県境を越えた広域連携による日田彦山線沿線地域の振興策について